

高く 広く 強く 豊かに

2025(令和7)年6月23日

伊賀市立阿山中学校

No.5 伊賀市千貝 10番地

<http://www.iga.ed.jp/ayama-j/>

学校だより



～だれもがいきいきと生きられる社会をめざして～

☆ 1学期人権講演会・全校人権集会

6月13日(金)にPTA研修部主催の人権講演会が行われました。本年度は講演会と全体交流会の開催となりました。保護者・地域の皆さんにもご参加をいただきありがとうございました。

講師に三重テレビ放送の小川秀幸さんをお迎えして「ハンセン病問題から私たちにできること」をテーマに講演をいただきました。

隔離政策の違法性を問うた裁判で元患者や家族が勝訴し、補償や支援が進められていますが、まだまだハンセン病に対する偏見と差別はなくなっています。新型コロナウイルス禍の折りには、感染症への差別が起きました。小川さんは、三重を含む東海地方出身の元患者を長年取材してきた経験から、元患者の体験や思い、願いや、今を生きるわたしたちが何をすべきかを伝えていただきました。



全体意見交流会では、1年生を皮切りに、2年生、3年生の多くの生徒や先生からの発言もあり、それそれが、話を聴いての感想や自分の考え方や思いを出しました。交流会の時間が足りないような状況で、次から次へと発言がつながっていました。

～「人権講演会を終えて」の生徒の感想より～

◇小川さんのお話を聞いて、ハンセン病のことについて、去年よりもくわしく知ることができました。今まで教室で資料や動画を見て、大体の事しか分かっていなかったけど、今日は入居者(療養所)の方たちの思いなどが伝わりました。(～中略～)話の内容で心に残っているのは、「夏休みに旅行だと思ったら、長島愛生園(岡山県の療養所)に置いておかれた子」の話です。もちろん子どももつらかったし、さびしかったと思うけど、その子の親もつらかったと思います。そういったことが過去に本当にあったということが現実なので、つらい思いする人が世界からなくなるために、自分たちにできることを考えていきたいです。私の考えは、「経験をした方が勇気を出して話してくれた事を私たちが受け継いで、次の世代へつないでいく事」です。幸子さん(愛生園入所者)のように、人前で話すのが苦手だけれど、辛い記憶を思い出しながら話してくれる方がいるということを知りました。「二度と同じような生活を送る人を出したくない」という気持ちがあるので私は考えました。その願いが叶うことが、幸子さんたち入所者の方の幸せじゃないかなと思いました。





◇ 小川さんも言っていたように、「すべての差別がなくなるように」と、ハンセン病だけでなく世の中のすべての差別をなくしていきたい。正しい事、正しくない事をちゃんと見分けるようになりたい。

◇ みんなが言っているからといって、その中に加わるのではなく、正しい事なのか、間違っている事なのかを調べて、知った正しい事を発信することが大切だと思った。自分の親や親せきにも伝えたい。差別をなくしたいという同じ気持ちをもっている仲間を見つけることが大切だと思った。まずは自分が差別をしていないかを振り返ることから始めようと思う。

◇ 小川さんの話を聞いて感じたことは、ハンセン病だけでなく、差別している側、差別されている側の問題だけでなく、みんなにかかる問題であるという事があらためて分かりました。今もこの社会で、まだ偏見があるから療養所の外にでない人がたくさんいます。でも、その偏見は、自分たちがてしまっていることだから、偏見をあらため、自分の考えをしっかり見つめ直すことが大切だと思いました。自分でインターネットを使って調べることも大切だけど、本当に正しい知識か、間違いでないか、しっかりと見分け、どんな差別でも自分がはやく気付けるように、人の意見に流されず、自分の意見を大切にしようと思いました。

◇ 意見交流会では、自分が考えられなかった意見や新しい発見などができました。「偏見や見た目だけできめつけない」「他人事ではなく自分事のように考える」など、今後行動にうつしていきたいと思いました。

☆環境整備作業ありがとうございました！

6月7日(土)に、PTA福祉部が中心となり、PTA会員の皆さんに校舎周りや校庭の草刈り作業を行っていただきました。また、同窓会の委員様には、東側斜面のさつきの剪定にもご協力いただきました。

